

平成26年度 第2回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日 時 平成26年9月29日(月) 9時30分～10時30分
- 2 場 所 大和市地域医療センター 2階 講習室
- 3 出席者 委員10名
(井川、池田、遠藤、大津留、川淵、田中(孝)、田中(寛)、豊田、中林、平田)
- 4 傍聴人 なし
- 5 次 第
 - 1 市民意識調査結果の報告
 - 2 議題
 - (1) 部会における評価の進め方について
 - ・ 各部会長による状況報告
第1評価部会(8月27日)、第2評価部会(9月1日)
 - ・ 今後の進め方
 - 3 その他
次回開催日程 ほか
- 6 会議資料
資料1：平成26年度 第8次大和市総合計画に関する市民意識調査集計結果(概要)

【議 事】

- 会長 : 資料1「市民意識調査結果の報告」について、事務局に説明を求める。
- 事務局 : **【資料1について説明】**
- 委員 : 回収率を踏まえると、地域別の分布は概ね大和市の実態を反映していると思うが、年齢別や性別でみると偏りがあるので、アンケートの結果が大和市の住民の平均値と言えるかは疑問が残る。年齢別では特に顕著で、60歳以上の回答者が40%を超えており、当該意識調査を踏まえて施策を進めていくとなると、高齢の方の要望が強く反映されてしまうと考えられる。サンプリングバイアスと捉えられるので、調査結果にはそのあたりの言及が必要ではないか。もう一点、個別目標の重要度と満足度のクロス分析について、前回結果からどのように変化しているのか捉えているか。例えば、保健、介護、福祉、子育てのような分野は、前回も重要度は高く、満足度が低かったように記憶しているが、何か改善は見られているのか。具体的にみると、前回、満足度が低かった地域医療・救急医療は、今回満足度で改善がみられるのではないかと。施策評価で一番大切なのは、高齢の方や女性のサンプル数が多くて偏っていたとしても、重要度や満足度が高いものを見極めていく視点だと思うが、そういう認識でよいか。

- 事務局 : バイアスがかかっているのではないかという部分は、否定できないところもあるが、バックデータで、年代別の回答内容は捕捉することが可能である。例えば、子育てに関する施策については、30 歳代の人や子どもがいる人が、プラスの評価をしている傾向があり、子育て中の人の声として、分析することができると考えている。クロス分析については、重要度が高く満足度が低い項目は、基本的に施策として伸ばしていかなければならないところと認識している。地域医療については、重要度、満足度ともに高くなっているため、プラスの評価をいただいていると捉えている。前回との比較に関して、福祉や子育てといった項目は同様の結果になっている。子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関することについては、前は重要度が低かったが、今回高くなったと認識している。
- 委員 : 前回と四次元マトリックスがどう変わったのか、改善があったのかを分析するともっとクリアになると思う。
- 会長 : バイアスの問題は、回収率が 100%に近づかないと解消できない。設問の内容で、性差が出るようなものや、年齢や世代が影響するものを、いくつかサンプリングして、実際の男女比や年齢比に合わせて補正をかけた場合に、どのくらい変化するかを確認してみる必要があると思う。今のままだと、高齢の女性で長期間居住している人の意見が、かなり多数を占めているのは否定できない。高齢の方向けの施策はいいが、次の世代に対する施策という面で見ると、少し補正したほうがいい。前回の集計で補正していないのであれば、アンケート結果を使うときに、但し書きを入れる必要があると思う。
- 委員 : 量的な調査で一般的な傾向をつかむという趣旨は分かるが、特別に取り組むべき部分が見えなくなってしまうのではないか。例えば「大和市では、経済的に不安なく子育てができていると思う」という設問で、そう思わないと回答する人は少ないが、実際に経済的に困窮している人もいるので、ひとり親の人に聞くなど質的な調査もすると、さらにニーズがつかめると思う。
- 事務局 : 子どもの貧困問題について、最近クローズアップされていることは認識している。問題が今後深刻になってくれば、実態に即した対応をしていくことになると思うが、実際に事業を行う場合には、市民意識調査のようなマクロな視点の調査とは別に、実際にターゲットとなる方を対象としたものを実施していく必要があると考えている。
- 委員 : 結果はこれでいいと思う。しかし、重要度が高くて満足度が低い分野について満足度を上げることが重要だという考え方には、注意が必要だと思う。これまで日本が福祉政策に力を入れてきたのは、福祉政策に対する満足度が低いと言われてきたためであるが、結果として、いまだに満足度は上がらず財政負担が増えている。また、この中で重要度が低くなっているのは、

どちらかという文化や商業など命にかかわらない分野であるが、それらを市民の個人的な考えとして受け止めるのか、市役所として対応が必要なものとして見ていくのか、慎重に判断すべきである。極端に言ってしまうと、満足度が高い分野は今後力を入れなくてよいという判断もあり得ることになる。重要度の高さに関するアンケートで、回答する自分にとって重要なのか、役所にとって重要なのかを聞くという方法がある。この方法を用いると結果に明らかな違いが出てくる。例えば、交通利便性や医療について、個人にとって重要度は高いが、役所への期待度は低い傾向がみられる。市民の方も役所でなくて民間事業者に言わないと改善されないことと分かっているということになる。

会長 : 全体として、高齢の方にとっての問題ほど、重要度が高くなっていると想定される。これを間違っていると言っているのではなく、高齢者への施策と子育て世代や若い世代への施策がそれぞれ必要だということである。大和市では経済状況に不安なく子育てできているかの設問で、自らの経済状況を考えて回答しているか、大和市の状況を考えて回答しているのかというと、自分の問題として答えている人がほとんどだと思う。実際は貧困している子どもが少なくても、その貧困している人たちを救えているかどうか、この指標だけでは評価できないので、その点は注意しなければならない。本日は速報とクロス集計の報告ということだが、今後、分析を進めていただき、審議会で共通の認識を持てるように報告してほしい。

会長 : 続いて、次第2の「今後の進め方」について、今年度は施策評価を部会別に行うということで、8月と9月に開催した。第一部会と第二部会の会議の概要について説明していただき、今後の進め方について検討したい。

委員 : 第一部会を8月27日に開催し、個別目標1-1「心身の健康を維持・増進する」と1-3「高齢者や障がい者への支援を充実する」について、評価と今後の施策展開に関しての意見交換を行った。個別目標1-1は2つのめざす成果で構成されている。めざす成果1-1-1「市民一人ひとりが健康づくりに取り組んでいる」では、特にがん検診に関する意見が多く出た。具体的には、がん検診の受診率に関連して、乳がんの検診を受けられる医療機関が限られているため、マンモグラフィの予約が取りにくいという意見もあった。医師会との申し合わせや市立病院のキャパシティの問題はあるが、乳がん検診に対応できる医療機関を増やすことが可能かどうか、考える必要があると思う。めざす成果1-1-2「心身の健康を維持・増進するための体制が整っている」では、定期予防接種について、今後種類が増えていく中で、情報を幅広く周知していく必要があるとの意見が出された。

個別目標1-3は3つのめざす成果で構成されている。めざす成果1-3-1「高齢者が生き生きと暮らしている」について、大和市も含めて老人

クラブの加入率は全国的に低くなっている。老人クラブというネーミングが良くないのではといった意見が出された。めざす成果1-3-2「必要な介護サービスの支援が受けられる」について、本年6月の介護保険法の改正では、所得や資産のあるサービス利用者に応分の負担を求めていくことになっており、サービスの安定的な維持に向け、法改正の趣旨や、制度の内容をしっかりと市民に周知していくべきとの意見が出された。めざす成果1-3-3「障がい者が地域の中で自立した生活を送っている」では、障がい者へのサービス等利用計画の策定率が高いことについて、肯定的な評価が行われた。

- 委員 : 9月1日に第二評価部会を開催した。個別目標3-1「災害への対応力を高める」、5-2「移動しやすい都市をつくる」について評価を行った。個別目標3-1は、4つのめざす成果で構成されている。3-1-1「災害に対して自ら備えをしている」では、スタンドパイプや各種資機材を自主防災組織に配布するだけでなく、取扱いのための訓練や人材の育成など、継続的な支援の必要性が課題として挙げられた。3-1-2「防災・減災のためのしくみが整っている」、3-1-3「都市の防災機能が充実している」、3-1-4「十分な消防力が整っている」では、公助の取り組みでいうと、食糧備蓄率は計画目標値を達成しているが、あくまで避難生活者を対象にした数値であり、市民への伝え方には配慮が必要だとの指摘があった。全体を通して、災害時にしっかりと機能する、応援・協力体制を保つことや、地域防災力の構築が重要であるとの意見が出された。個人的な見解だが、担当部局の評価シートを見ている限り、ほとんどのことに対応できていて第三者が評価するのは難しいと感じた。そこで現状において弱点があるかと部局に聞いたところ、公助は進んでいるが、共助の部分は十分とは言えないという話があった。今後、それについて力を入れていく必要があると意見を述べた。
- 個別目標5-2については、2つのめざす成果で構成されている。5-2-1「地域交通の利便性が向上している」では、コミュニティバスについて、収益の状況や、今後エリアを広げるにあたり、ルートや効率性の追求など、利用者の増加に向けた工夫が必要であるといった意見が出た。また、高齢の方の利用が多いことから、高齢化対策として福祉部門との連携が重要であるとの意見もあった。5-2-2「自転車を快適に利用している」では、自転車専用レーンによって安全性が確保されたということだが、市が整備できるのは市道のみで、国道や県道でも整備が進むように働きかけを行うべきとの意見がでた。また評価とは別だが、自転車専用レーンの整備によって、違法駐車が減るといった想定外の効果が出ているとの意見もあった。
- 全体としては、人数が少なかったので意見交換しやすく、また2つのテー

マを2時間ほどかけてしっかりと議論できたため、良いと思った。他の部会での取り組みについては、議事録で把握できると思われるので、このまま部会で評価を行うことで良いと思う。

会長 : 他の委員の方から部会に分かれて評価を行うことについて、意見はあるか。
委員 : 他の部会の評価内容について聞いてみたい。今後メンバー全体で情報を共有する場はあるのか。

会長 : 予定でいうと、あと2回部会を開催し、その後全体会を行うので、そこで意見交換することになる。

今年度については、このまま部会体制で進めていくこととしたい。来年度、どのような体制で進めていくかについては、今年度最後の全体会で意見を伺う。規則上、担当する部会以外でも参加できている。事務局は早めに今後のスケジュール調整を行い、参加に配慮してほしい。

以 上